



2022年6月 第20巻 第6号

かく語りき—聖人の言葉

もしあなたが神の神秘を学ぶのに真剣であるならば、神はあなたに正しい師であるサドグルを遣わすだろう。あなたはグルを見つけることで悩む必要はないのだよ。

…シュリー・ラーマクリシュナ

だから、言っておく。祈り求めるものはすべて既に得られたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになる。

…主イエス

今月の目次

- ・かく語りき—聖人の言葉
- ・お知らせ
- ・2022年7月、8月の生誕日
- ・2022年6月12（日） スワミー・ヴィヴェーカーナンダ 第159回生誕記念祝賀会
- イベント概要
- レオナルド・アルヴァレス
- 開会の辞

サンジェイ・クマール・ヴァルマ駐日インド大使

○スピーチ

「スワミー・ヴィヴェーカーナンダの理想的な人間の概念」

ヴェリヤト・シジル・SJ 神父

- ・忘れられない物語
- ・今月の思想

今月の予定

お知らせ

コロナ禍が再燃してまいりました。プログラムへの参加を希望される方はご連絡ください。

Tel: 046-873-0428（協会）

2022年7月、8月の生誕日

7月の生誕日

スワミー・ラーマクリシュナーナンダ 7月26日（火）

8月の生誕日

スワミー・ニランジャナーナンダ 8月12日（金）
シュリー・クリシュナ・ジャンマシュ

タミ 8月18日(木)
スワミー・アドヴァイターナンダ
8月26日(金)

・日本ヴェーダーンタ協会の行事予定はホームページをご確認ください。

<https://www.vedanta.jp.com/>

スワミー・ヴィヴェーカーナンダ第159回生誕記念祝賀会 ヴィヴェーカーナンダ文化センター、 インド大使館 2022年6月12日(日)

イベント概要

レオナルド・アルヴァレス

祝賀会は出席者が多く、会場はほぼ満員であった。計画に1年を費やして当日の6月12日午前9時頃、大勢のボランティアが東京のインド大使館に到着し、イベント準備が始まった。テーブルには、ヴェーダーンタ関連の本、音楽CD、瞑想用マットなどのグッズや配布用のパンフレットが展示された。リハーサルは午後1時過ぎまで行われた。13:30に開場、プログラムは予定通り14:00に始まった。英語司会のキャシー・松井さんと日本語司会の横田さつきさんが挨拶した。次にスワミー・メーダサーナンダジー・マハーラーヂとスワミー・ディッヴィヤーナーナンダジー、そして日本の信者が

ヴェーダ・マントラを詠唱した。その後、スワミー・ヴィヴェーカーナンダ(スワミージー)への献花式が行われ、サンジェイ・クマール・ヴァルマ駐日インド大使が雑誌『不滅の言葉』の特集号をリリースされた。

続いて、ヴァルマ大使により開会の辞が述べられた。(下記に掲載)。二人目の講演者は慶應義塾大学教授の谷口智彦博士で、『スワミー・ヴィヴェーカーナンダが理想とした国家の概念とその国家の築き方』について情熱的で説得力を持って語られた。谷口博士はこれを現代世界、特に日印社会に照らして論じ、また、スワミージーがご自身に与えた影響についても話された。(7月号に掲載予定)。最後の講演者は上智大学名誉教授のシリル・ヴェリヤト神父(S.J.)で、講演の簡潔さがその超自然的な内容を際立たせた。(下記に掲載) 神父は、スワミージーとそのグルであるシュリー・ラーマクリシュナとの美しい絆によってもたらされたスワミージーのニルヴィカルパ・サマーディの経験の重要性を強調された。なぜならこの経験はスワミージーの人生を変え、人類の福祉のための壮大な使命へと彼を駆り立てたからだ。さらにヴェリヤト神父は、スワミージーは理想的な人間の代表であり、私たちは皆、究極的にはスワミージーと同じ道と経験を辿らなければならないことを強調し、スワミージーを全

人類のお手本に位置付けられた。

その後、短い休憩時間があり、出席者は東京のインド人コミュニティの指導者で高級インド料理レストラン数店のオーナーであるジャグモハン・チャンドラニ夫妻の厚意により提供されたサモサとジリピ(シュリー・ラーマクリシュナが食べるのがお

好きだった甘くてジューシーな揚げ菓子)と紅茶(チャイ)をいただいた。

イベントの後半は文化プログラムであった。まずは、ニーナさんが率いるグループ、ドゥワニのダイナミックなインド舞踊で始まった。演目は、シャンカラチャーリヤのシャクティの力への賛辞であるアイギリ・ナンディーニ賛歌などであった。

次に、日本の信者が二曲歌った。一曲目の『ムルタ・マヘーシュワラ』は、放棄の力、実行力、ライオンのような勇氣、そして慈悲、というスワミー・ヴィヴェーカーナンダの素晴らしい資質をたたえる賛歌だ。二曲目の「青空を見て」は、神の創造を称賛する日本語の賛歌で、すべては神の心象とあらわれに過ぎない、私たちの神への旅の道のりの間中、神の愛が私たちを導いている、と語る。

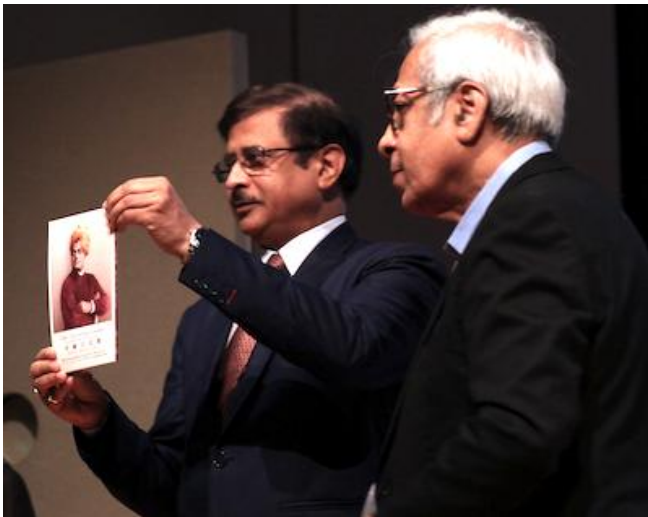
続いて、ベンガルのコミュニティ・グループが情熱的かつ心地よいハーモニーで数曲歌った。歌のプログラムは、

ヴェルマ大使など皆さんからスタンディング・オベーションを受けた。

次に、最初に登場したグループ、ドゥワニが、現代的なメロディーのダンスを披露した。それは非常にエネルギッシュで魅惑的なパフォーマンスだった。

最後に、日本ヴェーダーンタ協会書記の鈴木敦さんが日本語で、スワミー・ヴィヴェーカーナンダ祝賀委員会のメンバーであるジャグモハン・チャンドラニさんが英語で、謝辞を述べた。







日本ヴェーダーンタ協会のスワミー・メーダーサーナンダジー、
谷口智彦慶應義塾大学教授、
シ rilル・ヴェリヤト上智大学名誉教授、
ご来場の皆様、
ナマスカール、こんにちは。



第 159 回スワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕祝賀会を日本ヴェーダーンタ協会と共催することができ、大変嬉しく思います。今年はインド独立 75 周年、印日国交樹立 70 周年であることから、この祝賀会はさらに重要な意味を持っています。



ポジティブな思考と人類への奉仕を通じて精神性を高めることを唱導したスワミー・ヴィヴェーカーナンダは、私たちすべての社会的存在にとって大きな意味を持ちます。彼は思想家、人道主義者、深い精神性を持った指導者でしたが、真に自由主義的、近代的な思想を持った人物でもありました。圧倒的な知性と影響力をもつこの精神的天才は、39 年間という短い人生で不朽の功績を遺しました。困難に直面しても勇気を持つ、忍耐強く努力して目標を達成する、自分自身を信じる、成長のために苦しむことを厭わない、無私に幸せを見出す、最高の自己であろうと努力する、内省を大切にする、正直が最善の策である、神が創造したすべての存在は平等である、他者への共感が重要である—こういった彼の教えのすべては、過去と変わらず、今日の世

「開会の辞」

サンジェイ・クマール・ヴァルマ駐日
インド大使



界でも、そしてこれからも有効であり続けるでしょう

ヴィヴェーカーナンダの著作や演説、特に1893年にシカゴで開催された「世界宗教会議」での有名な演説には、全世界を動かす訴求力がありました。彼が「アメリカの姉妹たちよ、兄弟たちよ」と呼びかけた時、聴衆はスタンディング・オベーションをもって応えました。この演説により、ヴィヴェーカーナンダは「神に選ばれし演説者」として、また「インドの知恵を西洋に伝える伝道者」として知られるようになりました。

スワミー・ヴィヴェーカーナンダは、インドのあらゆる精神的指導者の中で、インドの精神性の本質を西洋に初めて紹介した人物でした。寛容、調和、相互的同化に重点を置く彼の教えは、私たちに、内なる自分と再び繋り、周囲の人びとに奉仕するよう、現実的な助言を与えてくれます。すべての信仰の背後には普遍的な真理があり、すべての人間は神なる輝きをもっており、その輝きは瞑想や学びを通じて培うことができるというヴィヴェーカーナンダの思想は、世界宗教会議の主催者を含む多くの宗教的自由主義者を魅了しました。その思想は彼が創設したヴェーダーンタ協会という運動の中で今日も受け継がれています。

スワミー・ヴィヴェーカーナンダのビジョンのもうひとつの形は、人間が自らの運命を選び取る力に対する揺るぎない信念でした。「すべての力はあなたの内にある。あなたは何でも、どんなことでもできる」と、自身も「カルマヨギー」（積極的に行動する人）であったスワミーは人びとに呼びかけました。

先日、日本を訪問したナレンドラ・モディ首相は、スワミー・ヴィヴェーカーナンダがシカゴに向かう途中に訪れた日本との特別なつながりを賞賛しました。日本は彼の知性と心に深い印象を残しました。ヴィヴェーカーナンダは、日本人の愛国心、自信、規律正しさ、清潔さへの意識を率直に賞賛しました。日本に影響を受けたスワミー・ヴィヴェーカーナンダは、「インドの若者は、一生に一度は日本を訪れなければならない」と述べました。

スワミーは、インドは思想的・精神的真理を有している一方で、近代科学的な発想と徹底した改革が必要であると確信していました。

日本のヴェーダーンタ協会は、宗教的調和と人間的価値観の普及を基礎とした非宗派的なアプローチにより、精神的・文化的プログラムを通じて、日本国民の幅広い層に働きかけています。この機会に、精神的な絆と社会的な風

習を豊かにし、印日間に特別なつながりをもたらしている日本ヴェーダーンタ協会、特にスワミー・メーダーサーナンダジーの類まれなる奉仕と貢献を称賛したいと思います。

この機会に、スワミー・ヴィヴェーカーナンダの夢を実現するため、たゆまぬ努力を続け、自分たちの役割を果たすことを誓おうではありませんか。ありがとうございました。

「スワ-ミー・ヴィヴェーカーナンダの理想的な人間の概念」

ヴェリヤト・シ rilル・SJ 神父
上智大学名誉教授



皆様ご存知のように、今日の講演の主題はスワミー・ヴィヴェーカーナンダの理想的な人間の概念です。スワミー・ヴィヴェーカーナンダはどのような人を理想的な人間として見なしていたのでしょうか。彼の著作を見ると「人間がどうあるべきか」ということ

について、彼は明確な見解を持っていたことがわかります。以下は彼が人間について言っていたいくつかの声明です。

彼によると人間はすべての創造された物の中で最も偉大であり、完璧な人間は神以外の何物も見ていません。すべての人間は本質的に完璧です。一部の人々はこの完璧さを明らかにすることができますので、私たちが彼らを見るとき、彼らの中にあるその完璧さを見ることができます。この完璧さを明らかにしない人もいるかもしれませんが、しかし完璧になる可能性が私たち一人一人の中にあります。すべての人間は神聖であり、すべての人間は自分の本質によって神聖です。人間には無限の力があり、彼らはその力を感じることができます。彼らは自分自身が唯一の無限の神であることをはっきりと知っています。これらがスワミー・ヴィヴェーカーナンダが人間について言った有名なコメントです

最近、ウェリンダー・グローバーという学者が編集したスワミー・ヴィヴェーカーナンダに関する本を読み、そこでスワミーご自身が書かれた次の文章を見付けました。そこには、彼が「偉大な使者」と呼んでいる人間、つまり、この世界に現れた過去のさまざまな宗教的伝統の聖なる傑出した男性と女性について語られていました。彼らについて書かれたことは次のとお

りです。

「人々は一般的に、たった一つの宗教、たった一人の預言者、そしてたった一人の神の化身しかあり得ないと思っています。それは真実ではありません。私たちがこれらの偉大な使者の人生を調べて見れば分かるように、それぞれが人生で特定の役割を果たす運命がありました。私たちが調和と呼ぶものは、一人の人間が果たす役割だけでなく、すべての人間が果たす役割に存在しています。人類は世界を自分だけで楽しむために生まれていません。すべての種族はこの神聖な調和において果たすべき役割があります。すべての種族は実行する使命を持っています。すべての種族は履行する義務があります。」

スワミー・ヴィヴェーカーナンダがここで語っている偉大な使者たちは、明らかに過去の偉大な宗教指導者です。彼らは、多様な人種、伝統、信条、歴史的環境に属する著名な男性と女性で、彼らは単一のメッセージ、すなわち愛のメッセージによって刺激を受けました。彼らにとって重要なのは神と隣人を愛することでした。私は上記の文章から、このような人たちがスワミー・ヴィヴェーカーナンダが語る理想の人間だとすぐに気づきました。過去のこれらの著名な男性と女性は、神を愛し、神に仕えることで一生を過ごし

ました。彼らは、ヴィヴェーカーナンダが私たち全員に模倣して欲しいを望んでいた人々です。

これらの偉大な使者たちは、私たちが「ミスティック」や「神秘主義者」または「聖人」と呼んでいる人たちです。このような神秘主義者や聖人は常に神の愛に満ちている人々ですが、時には神の愛が彼らを非常に強力につかみ、彼らが超常的な状態、想像を絶する喜びの状態に入ることがあります。これを「エクスタシー状態」と呼んでいます。私がスワミー・ヴィヴェーカーナンダの伝記を初めて読んだとき、彼もこのエクスタシー状態を経験していることを知りました。彼は自分の多くの問題に落ち込んでいたときに、自分の尊師シュリー・ラーマクリシュナに会いに行き、その状態を経験しました。エクスタシーは喜びの状態ですが、神秘主義の学者によれば、その喜びが時々非常に激しくなり、痛みを伴うことさえあると言っています。大きな苦しみを味わうが、しかしそれは痛みではなく愛と喜びによって引き起こされた苦しみです。スワミー・ヴィヴェーカーナンダは、自分自身の神秘的な体験を次の言葉で説明されました。

「彼（シュリー・ラーマクリシュナ）が私のほうに近づいてきて、私が止める前に彼は自分の右足を私の体に置きました。その接触はとても痛かった。

私の目が開いていて、部屋の壁や他のすべてのものが急速に渦巻いて無に消えていくのを見ました。まるで宇宙全体と私が同時にすべてを覆っている空虚さの中で消えてしまったように見えました。怖かったです。私は自分が死に直面していると信じていました。私は自分をコントロールできなかつたので、「何をしているの？家で両親の世話をしなきゃ！」と叫びました。そうすると、あの偉大な賢人が私の体から自分の足を取り除きました。彼が足を離れた瞬間、私の珍しい経験も消えました。部屋を見回すと、以前と同じようにすべてが正常であることがわかりました。」

上記はスワミー・ヴィヴェーカーナンダの神秘的な経験であり、歴史家によればこの経験の後、彼はまったく別の人物になりました。彼は二度と同じ男に戻る事はありませんでした。この経験は彼に新しい道を開き、彼にとってそれは新しい人生の始まりでした。

さて、西洋の学者はこのような経験をどのように見ているのでしょうか。19世紀のイギリスに神秘主義に深く興味を持っていたウィリアム・ブレイクという有名な詩人がいました。彼は宗教学者ではありませんでしたが神秘的な体験が大好きで、その体験のことを次の美しい言葉で説明されました。

「一粒の砂で世界を見る、野生の花で天国を見る、手のひらに無限大を持つ、1時間で永遠を楽しむ」 言い換えれば、砂粒を見ると宇宙全体が見え、花を見ると天国が見え、自分たちが無限で永遠であることに気づいたとき、我々は永遠の神を体験したということになります。スワミー・ヴィヴェーカーナンダにとって、これは理想的な人間だと思います。理想的な人間は、スワミー・ヴィヴェーカーナンダご自身と同様に、神を経験した人物です。

ここで、スワミー・ヴィヴェーカーナンダが持っていた神のイメージについて説明したいと思います。ご存知のように、スワミー・ヴィヴェーカーナンダは評判の高い学者でした。彼は、聖書や「キリストに倣いて」のような有名なキリスト教の聖典を含む、さまざまな宗教の多種多様な経典を研究していました。それらすべての経典が彼に影響を与えたとは私は確信しています。しかし、最も大きな影響を与えたのは2つのヒンドゥー教の経典で、それはウパニシャッドとバガヴァッド・ギーターではないかと思いました。ウパニシャッドはさまざまな方法で神を描写しています。神は永遠の超越的なものとして描写されており、始まりも終わりもなく、そして変わらないものです。言葉で神のことを説明することはできません。神はすべての存在と非存在を超えていますが、それでも不

思議な方法で神はすべてに浸透し、すべての基盤です。

神は至高の霊であり、純粹な意識の海であり、全知であり、至福で不滅であり、無限であり、最小の原子よりも小さく、最大の空間よりも大きく、すべての活動の監督者です。歴史家のダスグプタによれば、ウパニシャッドでは、神は私たちから離れたものではなく、私たちが喜ばせようとしている人でもありません。神は私たちが従う法や命令を持っている人ではありません。私たちが敬意と献身をもって服従する人でもありません。むしろ、神は私たち自身の究極の本質であり、宇宙の最高の絶対者です。私たちは神のことをアートマン（永遠の魂）、またはブラフマン（すべてを浸透している永遠の霊）と呼びます。

バガヴァッド・ギーター聖典の第 11 章では、クリシュナ神がすべての主として、自分の最高の栄光の形でアルジュナ王子の前に現れました。その壮大なビジョンの中で、アルジュナ王子はクリシュナ神の体の中で宇宙全体を見ました。それは千の太陽の光のようなビジョンで、アルジュナ王子はそのビジョンに圧倒されました。彼はクリシュナ神のことを多くの名前呼びました。例えば、不滅のもの、宇宙の究極の休息場所、永遠の法の不滅の守護者などです。

その様なことから、スワミー・ヴィヴェーカーナンダにとって理想的な人間とは、至高の神を神秘的に体験した人と言えます。その体験は、自分自身がシュリー・ラーマクリシュナに会ったときの体験と同様なものでなければなりません。理想的な人間とは、できるだけ完全に愛に動機づけられた人生を送る人です。彼の神への意識がそんなにも強いので、儀式や他の象徴的な手段を使用する必要性を感じていませんでした。彼は神様と非常に深い親密さがあるので、彼はすべての人々と周りのすべてのものに神の良さを放射するしかなかったのです。

理想的な人間にとって、つまりスワミー・ヴィヴェーカーナンダのような神秘的な体験をした人にとって、その体験の後も周りの世界は変わらないでしょう。人々が見る世界は以前と同じですが、しかし彼らは違った視点を通してその世界を見るでしょう。学者のアンソニー・デ・メロは、禅仏教の例を用いて、この事を次のように説明しています。

ある禅師が悟りを開いたとき次の言葉を書きました。「なんて素晴らしいことでしょう。木を切ります。井戸から水を汲みます。」この一節についてデ・メロは次のように述べています。

「ほとんどの人にとって、薪割りや井戸からの水汲みなどの活動には特別な意味は何もありません。すべての村人がそれをします。悟りの後、何も実際には変わりません。すべてが以前と同じままです。周りの木は同じ木になり、周りの人は同じ人になり、私たちも同じになります。ただし、大きな違いが1つあります。今、私たちはこれらすべてのものを違った視点を通して見るでしょう。」

これがスワミー・ヴィヴェーカーナンダに起こったことです。シュリー・ラーマクリシュナとの神秘的な体験の後、彼は以前と同じ生活に戻りました。しかし、大きな違いがありました。彼は今まったく異なる方法で世界と自分の周りの問題に反応したのです。

私たちのインドの伝統では、サンスクリット語の「ジーヴァナムクタ」という言葉があります。これはヴェーダーンタ派の哲学で使われている言葉であり、まだ生きていて体を持っているにもかかわらず、転生の絆から解放され、神を体験した人を意味しています。そのような人々は私たちの間で普通の人々と同じように生活し働いていますが、彼らはすでに神の体験を有しています。そのような人々は、アートマ・ジュニャーニ（自分の魂またはアートマンを体験した人）、またはブラフマー・ジュニャーニ（すべてに浸透して

いる永遠の霊またはブラフマンを体験した人）とも呼ばれます。

一部のヴェーダーンタ派の教師は、「ジーヴァナムクタ」の考えを受け入れませんでした。たとえば歴史家によると、アドヴァイタまたは不二一元論の哲学を教えた8世紀ごろのシャンカラチャリヤ師と、アチンチャベ-ダーベ-ダまたは不可思議不二不異説の教義を説いた15世紀ごろのチャイタンヤ・マハープラブ師は両方ともその考えを受け入れました。しかし、ヴィシスタドヴァイタまたは制限不二論の教義を説いた11世紀ごろのラーマヌジャチャリヤ師の場合、後世の学者は彼がそれを受け入れたかどうか確信はできないとしています。

スワミー・ヴィヴェーカーナンダは「ジーヴァナムクタ」の考えを受け入れたのでしょうか。この質問に対する私自身の答えは、彼は確かにこの考えを受け入れたということです。スワミー・ヴィヴェーカーナンダは「ジーヴァナムクタ」の概念を受け入れただけでなく、彼自身も「ジーヴァナムクタ」であり、彼が深く愛し尊敬していた尊師シュリー・ラーマクリシュナのことも「ジーヴァナムクタ」として見なしていました。

忘れられない物語

「スワミー・ラーマクリシュナーナ
ンダの回想録」より抜粋

シスター・デーヴァマータ（スワ
ミーのアメリカ人の弟子）

スワミー・ラーマクリシュナーナ
ンダは私のインドでの生活において、
突出した存在である。私がマドラスの
駅に降り立つのを待っておられた瞬間
から、私を西へと運ぶボンベイメール
の客車の窓に顔を付けて別れの挨拶を
するまで、スワミーは生活の本質的
な存在であった。彼は常にあふれるほ
どの偉大さと威厳があった。彼は、人
生の些細なことは払い除け、より高潔
な考えと行動のために多くの時間を取
る方法を知っていた。

ある晩、インド式礼拝であるアーラ
ティの後に、激しい熱帯暴風雨がマイ
ラポールを襲った。数名のイスラム教
徒の学生たちが、ラーマクリシュナ僧
院に避難してきた。スワミー・ラー
マクリシュナーナは彼らに対して
心を込めて歓迎した。それから本当の
意味での霊的礼儀をもって、ヴェーダ
聖典や自身の信仰についてではなく、
学生たちの宗教とコーランについて語
り始めた。彼のイスラム教に関する説
明は非常に勉強になったので、学生た
ちはもっと話を聞きたくてそれから一
週間毎晩、僧院に通ったほどだ…。

スワミー・ラーマクリシュナーナ
ンダの信仰は表面的な感情ではなく、
彼の存在の最奥の根にまで達していた
…。だから彼は最高の力に対する中途
半端な煮え切らない信仰には我慢なら
なかった。ある日、彼はこう言った。「今、
私たちは神を部分的にしか信じていま
せん」「私たちは、自分自身で多くのこ
とをより良くすることができると思っ
ています。『神様、どうかこの手紙を書
いて下さい』と言いながら、自分の方
が神様よりも良い手紙が書けると信じ
ています。だから私たちは手紙を神様
にお任せしないのです。しかし、私た
ちが神様にすべてを捧げることができ
たなら、その時、私たちは神様がどれ
ほどうまく私たちに奉仕してくださっ
ているが分かるでしょう。なぜなら、
そのような信者に対して、神様は本当
のしもべとなると、おっしゃっている
のですから」

私がマドラスを去る少し前のある晩、
町から車で帰る途中に、『スワミーを
助ける者がほとんどいない中、マドラ
スを去るのは残念です』と申し上げた。
それに対する返事は、直接的で断固と
したものだだった。

「私は支援者を必要としていません。
私は常に神に満たされています。それ
以外に誰も必要ではありません。もし
神様が誰か支援者を送ってくだされば、

私は満足です。もし、神様が誰も送ってこられなくても、私は満足です。なぜなら、神様が私に届けてくださるものすべてが、私にとって善きもので、最高のものなのです」。

—アメリカンヴェーダンティスト協会

今月の思想

信仰とは、まだ暗い夜明けに光を感じる鳥である。

…ラビンドラナート・タゴール

発行：日本ヴェーダータ協会

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: info@vedanta.jp